

大阪狭山市文化財報告書35

# **大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書18**



平成20年（2008年）3月

大阪狭山市教育委員会

**大阪狭山市内遺跡群  
発掘調査概要報告書18**



平成20年(2008年)3月

大阪狭山市教育委員会

## 序 文

大阪狭山市内には大阪府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、数多くの文化財があります。狭山池では平成の改修に伴う発掘調査によって多くの遺跡、遺構が出土し、下層東樋・中樋等が大阪府の指定文化財となりました。平成13年3月にオープンした大阪府立狭山池博物館では、大阪府・大阪狭山市共有的文化財であるこれらの遺構や遺物を展示し、多くの方々にご観覧いただいております。

本市教育委員会では、平成2年度より個人住宅などの建築に伴う発掘調査を継続的に実施してまいりました。本年度は陶邑窯跡群などの遺跡で調査を実施し、貴重な成果を得ることができました。本書はこれらの調査成果をまとめたものです。本書が地域の歴史を考える上での一助となれば幸いです。

調査にあたりましては、建築主の皆様ならびに周辺の皆様に多大なご協力を賜り、厚く感謝いたします。

今後とも本市文化財保護行政に対するご理解とご支援のほどを、よろしくお願ひ申し上げます。

平成20年(2008年)3月

大阪狭山市教育委員会  
教育長 宮崎順介

## 例　　言

1. 本書は国庫の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成19年度事業として大阪狭山市内で実施した個人住宅建築等に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の結果をまとめた概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下の通りである。

1 東野庵寺	06-01区
2 狹山藩陣屋跡	07-01区
3 範囲確認調査	070507区、070705区、070919区、071226区
3. 発掘調査は、大阪狭山市教育委員会教育部社会教育・スポーツ振興グループ植田隆司が担当した。現地調査においては、鳥山丈夫、米澤孝成ら各氏のご協力を得た。
4. 内業調査については植田が担当し、若宮美佐、橋本和美、樋口智子ら各氏のご協力を得た。出土遺物の撮影は有限会社阿南写真工房に委託した。
5. 本書の執筆・編集は植田が担当した。

## 本文目次

(頁)

序文	大阪狭山市教育委員会教育長 宮崎順介
例　　言	
はじめに	1
1. 東野庵寺	06-01区 ..... 9
2. 狹山藩陣屋跡	07-01区 ..... 24
3. 範囲確認調査	070507区 ..... 26 070705区 ..... 26 070919区 ..... 27 071226区 ..... 27
まとめ	28
報告書抄録	29

# はじめに

大阪狭山市内では1960年代以降に急激な人口増加が生じ、南部の丘陵地を中心に住宅開発が進んだ。1980年代以降はそのころの勢いは衰えたものの、小規模な開発は盛んである。また、近年では1960年代～1980年代に新築された住宅の建て替えが進んでおり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘調査が多い。

つぎに大阪狭山市内の遺跡群が所在するエリアの歴史的環境について触れておきたい。

市域における旧石器時代の資料として、寺ヶ池遺跡で採集された晩期旧石器時代の有舌尖頭器が知られている。また、東野遺跡・池之原地区・ひつ池の各所にて採集されたナイフ型石器もこの時代の遺物となりうる可能性がある<sup>1)</sup>。縄文時代の資料としては、寺ヶ池遺跡・東村遺跡・大鳥池遺跡・へど池・狭山池・ひつ池・上明池・池之原地区で採集された石器・スクレイバーなどが知られており<sup>2)</sup>、当該調査区周辺域が縄文人の狩猟場であったことを伺わせる。付近の縄文時代の集落遺跡としては富田林市に所在する錦織遺跡が著名であるが、旧天野川流域ではこの時期の集落遺跡はまだ確認されていない。弥生時代後期になると旧天野川流域でも集落遺跡がみられるようになる。狭山池の南方約3kmの地点にある茱萸木遺跡は弥生時代後期の高地性集落である<sup>3)</sup>。

古墳時代以降の本市域内における人々の活動の痕跡は、近年の発掘調査成果によって、明確に認識可能なものとなっている。旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡では、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性がある遺構とともに庄内式の壺・壺と布留式の壺が出土しており、古墳時代前期までには旧天野川流域に集落が成立していたことを示している<sup>4)</sup>。旧天野川右岸の中位段丘上に立地する狭山藩陣屋跡の下屋敷では、2002年の調査で、自然の谷地形の底部分からTK47型式の須恵器が出土した。古墳時代中期の集落が中位段丘上に存在した可能性が高い<sup>5)</sup>。

古墳時代中期以後、泉北丘陵を中心とした地域で須恵器生産が盛んに行われ、陶邑窯跡群が形成された。5世紀後葉から6世紀前葉までの本市域内における窯の造営は、陶器山丘陵およびその北方に連続する高位段丘の陶器山(MT)地区のみに限定されるようである。発掘調査が行われた市内の窯跡としては、TK47型式～MT15型式の須恵器を生産した陶器山252号窯(MT252・山本1号窯)<sup>6)</sup>がある。また、その南南東約800mの地点には陶器山15号窯(MT15)<sup>7)</sup>がある。増大した須恵器の需要に対応して、6世紀後半の陶邑窯跡群における生産活動はより活発なものとなる。窯体の構築場所と燃料の薪をあらたに確保するため、窯の造営は東方の中位段丘へとその分布域を拡大し、狭山池(SY)地区の窯跡群が形成される。TK43型式～TK209型式の須恵器を生産する狭山池(SY)地区の窯跡には、太満池北窯(SY1・TMN)<sup>8)</sup>・太満池南窯(SY2・TMS)<sup>9)</sup>・狭山池2号窯(SY9・SI2)<sup>10)</sup>・狭山池3号窯(SY10・SI3)<sup>11)</sup>・狭山池5号窯(SY11・SI5)<sup>12)</sup>・池尻新池南窯(SY21・ISS)<sup>13)</sup>・ひつ池東窯(SY25・HTE)がある。窯の造営域が最も東方へと拡大した当該期以降の窯の造営は東除川水系の中位段丘崖より以西で行われており、この谷筋が陶邑窯跡群狭山地区的東端となっている。7世紀に入ると本市域内における

須恵器窯の数は減少するが、狹山池主谷周辺の中位段丘斜面での操業は継続し、東池尻1号窯(SY7・HI1)<sup>14)</sup>・狹山池4号窯(SY12・SI4)<sup>15)</sup>・ひつ池西窯(SY24・HTW)<sup>16)</sup>などが確認されている。

7世紀前葉、狹山池主谷を横断する全長約300m・全高約6mの堤を築くことによって旧天野川(西除川)と三屋川の流れを堰き止め、ダム式のため池である狹山池が造られた。この狹山池を堰き止める堤の直下から、コウヤマキを割り抜いてつくられた桶管を連結する下層東柵が検出された。この全長約60mにも達する底柵の埋設時期は、桶管材であるコウヤマキの伐採年代が西暦616年であることが年輪年代測定法により判明したため、同年以降の非常に限定された時間幅の中に求められることとなった<sup>17)</sup>。狹山池築造以後、その灌漑範囲に位置する下流地域では、堺市美原区平尾遺跡・太井遺跡・丹上遺跡・羽曳野市郡戸遺跡・河原城遺跡など、土地開発の拠点となる遺跡が成立していった。大阪狹山市域では7世紀後葉から8世紀初頭頃、旧天野川右岸の中位段丘上に東野庵寺が建立された。

奈良時代、天平3(731)年に行基が狹山池院と尼院を建てたと『行基年譜』に記されている。これに関連する建物跡は現在までに確認されていないが、おそらくは狹山池北東の中位段丘上、もしくは北西の中位段丘上に占地していたのではないかと想定される。なお、狹山池北堤には行基が改修したと考えられる厚さ60cmの盛土が確認されている<sup>18)</sup>。また、天平宝字6(762)年、狹山池の大規模な改修工事が実施されたことが『続日本紀』に記されている。発掘調査では、狹山池北堤を築造当初と比較して2倍に拡幅する大規模な盛土工事が実施されたことが判明した。また、飛鳥時代に埋設された下層東柵を池側へ約13m延長する工事もこの時に行われたようである<sup>19)</sup>。

平安時代、最澄が写した弘仁10(819)年の記録によれば、僧勤操が「狹山池所」にいたことがわかる。狹山池改修に関わる役所が、狹山池の近傍に設置されていたものと思われる。なお、狹山池下層東柵では、奈良時代にあらためて造られた取水部から、年輪年代測定法によって弘仁8(817)年に伐採された部材が確認されており、勤操による弘仁の改修時に、下層東柵取水部の補修が行われたと考えられている<sup>20)</sup>。また、このデータによって、飛鳥時代に埋設された下層東柵が、補修を受けながらも200年間以上も機能し続けたことが明らかになった。

鎌倉時代、重源によって狹山池の改修が行われた。発掘調査で出土した江戸時代の中柵に使用されていた石材の中から重源狹山池改修碑が出土し、この碑文から、重源の改修が建仁2(1202)年に行われたことが確認された<sup>21)</sup>。同時に出土した石材は、古墳時代の家形石棺や横口式石槨の材を転用したもので、重源の改修時には石柵として利用していたものと推定される<sup>22)</sup>。13世紀前半、狹山池北堤から約400m北方の地では、池尻遺跡が営まれており、水田跡や屋敷地などの遺構が検出されている。また、池尻遺跡の13世紀前半の遺構面は、複数回にわたると考えられる洪水によって堆積した砂層が確認されており、この時期に狹山池北堤は一度決壊したものと考えられる。南北朝の動乱期、狹山池北西に築かれた池尻城の周辺では、延元3(1338)年と正平2(1347)年に合戦が行われた。池尻城跡からは13世紀末から15世紀前半にかけての建物跡が確認されている<sup>23)</sup>。室町時代、天文年間から永祿2年頃(1532年~1559年)、安見美作守によって狹山池の改修が行われたが失敗した旨が、慶長13(1608)年に刻まれた西柵銘板

に記されているが<sup>24)</sup>、考古学的にはこれを裏付ける有効な資料がいまだ確認されていない。

文禄5(1596)年に発生した大地震によって狹山池北堤は大きな被害を受けたようで、その時の決壊痕跡が北堤断面調査<sup>25)</sup>等によって確認されている。慶長13(1608)年、豊臣秀頼の家臣片桐且元によって、狹山池では慶長の改修が行われた。この時の改修は、西樋・中樋・東樋をあらたに造り、西除の造り替え・東除の新設、北堤のかさ上げを行う大規模なものであったことが発掘調査によって確認された。この時につくられた西樋・中樋は、江戸時代・明治時代・大正時代と補修を施しながら継続して使用され続けた。元和2(1616)年、北条氏信が狹山池の北東に陣屋を構え、狹山藩が開かれる。氏信は、小田原の北条氏康の子、氏規の孫にあたる。寛永14(1637)年、北条氏宗の代に狹山藩陣屋の上屋敷が造営される。宝永6(1709)年、北条氏朝の代になって、現在の狹山遊園跡地を中心とした地域に、狹山藩陣屋の下屋敷が造営される。以後、明治維新に至るまでの間、狹山藩の陣屋は一貫してこの地に営まれていた。上屋敷における発掘調査では、天明2(1782)年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と、大火以後から幕末頃までの上層遺構面が確認されている。下屋敷においては、発掘調査件数が少ないが、狹山遊園跡地北側の住宅地で、当時の武家屋敷の遺構が確認されている。狹山遊園跡地の南半部では、幕末以後に作成されたと推定される「狹山藩陣屋下屋敷図」<sup>26)</sup>によると、主として馬場や芝地や畑地として利用されていたようである。

#### 註記

- 1) a. 上野正和「狹山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狹山市文化財紀要』創刊号、1992年  
b. 勝部明生「狹山の石器」『大阪狹山市史要』1988年  
c. 狹山町史編纂委員会『狹山町史』第2巻、史料編、1966年
- 2) 前出註1文献
- 3) 1960年代後半に、近畿大学医学部附属病院用地造成に伴って発掘調査が行われ、現地説明会も実施されたようであるが、詳細は不明である。
- 4) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第5節 下流遺跡の調査 I 池尻遺跡(1)」1998年
- 5) 「平成14年度 狹山藩陣屋跡発掘調査報告書」『大阪狹山市文化財報告書』26、2002年
- 6) 「山本1号窯発掘調査概要報告書」『大阪狹山市文化財報告書』1、1988年
- 7) 田辺昭三「陶邑古窯址群」『平安学園考古学クラブ研究論集』10、1968年
- 8) 「太満池南窯・北窯発掘調査報告書」『大阪狹山市文化財報告書』5、1991年
- 9) 前出註8文献
- 10) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 II 狹山池2号窯」1998年
- 11) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 III 狹山池3号窯」1998年
- 12) 『狹山池5号窯・狹山藩陣屋跡』『大阪狹山市文化財報告書』31、2004年
- 13) 「池尻新池南窯発掘調査報告—陶邑窯跡群の調査—」『大阪狹山市文化財報告書』7、1992年
- 14) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 V 東池尻1号窯』狭山池調査事務所、1998年
- 15) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 IV 狹山池4号窯』狭山池調査事務所、1998年

- 16) 「ひとつ池西窯－陶邑窯跡群の調査－」『大阪狭山市文化財報告書』10、1993年
- 17) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 棚の調査 III 東側下層遺構』狹山池調査事務所、1998年
- 18) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第1節 北堤堤体の調査 I 北堤断面』狹山池調査事務所、1998年
- 19) 前出註16・17文献
- 20) a.光谷拓実「狹山池出土木樋の年輪年代」『狹山池』埋蔵文化財編、第3章 第3節、狹山池調査事務所、1998年  
b.小山田宏一・中山潔・有井宏子・白江人智・植田隆司『大阪府立狹山池博物館常設展示案内』大阪府立狹山池博物館図録1、2001年
- 21) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 棚の調査 I 中棚遺構』狹山池調査事務所、1998年
- 22) 市川秀之「狹山池出土の棚の復元と系譜」『狹山池』埋蔵文化財編、第3章 第5節、狹山池調査事務所、1998年
- 23) 小林義孝『池尻城跡発掘調査概要』、大阪府教育委員会、1987年
- 24) 前出註19 b 文献
- 25) 前出註17文献
- 26) 都築忠夫氏所蔵。下記書籍等に収録。  
『大阪狭山市史叢書 絵図に描かれた狹山池』大阪狭山市教育委員会、1992年

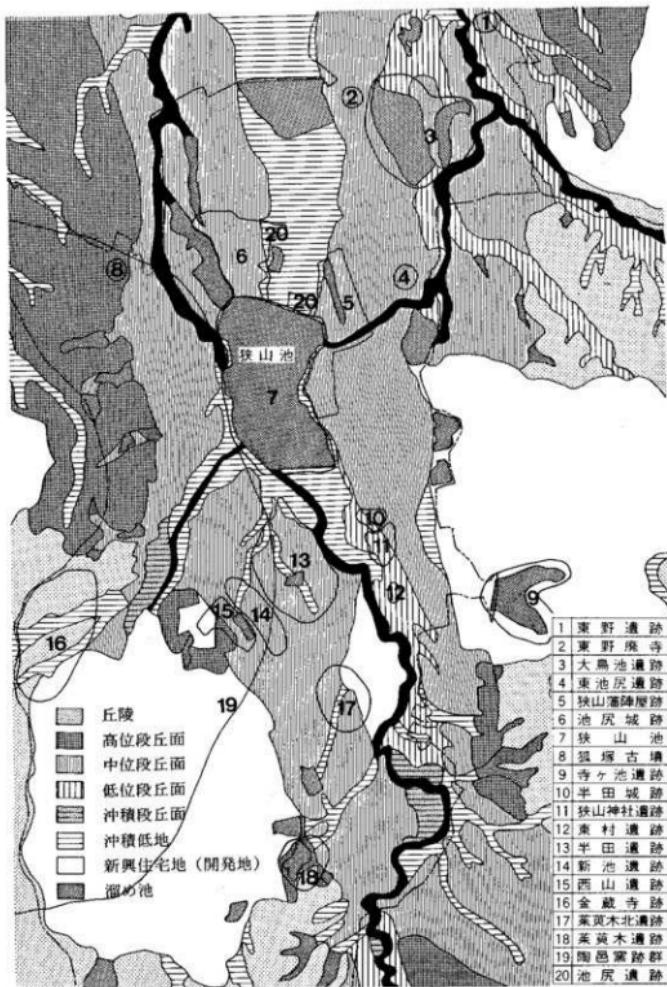


図1 大阪狭山市内の遺跡分布と地形分類

表1 平成19年度発掘調査一覧表

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m <sup>2</sup>	用途	概 要
1	平成19.3.5 ～3.6	東野庵寺	東野中2-988-2の一部、988-4の一部	157.14	個人住宅	本発掘調査を実施。地表下約1.5mから1.8mの深さで近世に形成された瓦溜まりを検出。近世の蓮光寺に葺かれていた瓦が大量に出土。
2	平成19.5.14	陶邑窯跡群	今熊4-710-26	133.39	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
3	平成19.6.6	陶邑窯跡群	茱萸木1-73の一部 74の一部	74.96	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
4	平成19.6.25	陶邑窯跡群	今熊4-710-40、 710-41, 711-43	120.51	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
5	平成19.5.30	陶邑窯跡群	今熊4-710-10	140.03	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
6	平成19.7.2	陶邑窯跡群	今熊4-710-13, 33	131.29	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
7	平成19.7.6	陶邑窯跡群	茱萸木3-166の一部	181.64	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
8	平成19.7.12	陶邑窯跡群	今熊4-709-4, 710-6	100.02	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
9	平成19.7.23	陶邑窯跡群	岩室2-243-3	148.98	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
10	平成19.9.3	陶邑窯跡群・ 金藏寺	今熊3-624-16	96.63	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
11	平成19.9.4	陶邑窯跡群	今熊4-710-7	141.36	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
12	平成19.9.12	猿山藩陣屋跡	東池尻3-2479-3	129.57	個人住宅	本発掘調査を実施。近世末期と思われるピットを1箇所検出。遺物を確認することはできなかった。

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m <sup>2</sup>	用途	概 要
13	平成19.10.31	陶邑窯跡群・金蔵寺	今熊4-710-35 710-42	148.67	個人住宅	擁壁基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
14	平成19.11.6	陶邑窯跡群	岩室1-256-1 256-2の一部	291.73	個人住宅	擁壁基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
15	平成19.11.27	陶邑窯跡群・金蔵寺	今熊4-710-37 710-3の一部	100.05	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。すべて盛土で遺物・遺構等なし。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
16	平成20.3.12	池尻城跡	池尻自由丘3-29-148	257.95	個人住宅	本発掘調査を実施。調査区土層断面および底面で精査したが、遺物・遺構を確認することはできなかつた。

表2 平成19年度範囲確認調査一覧表

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m <sup>2</sup>	用途	概 要
17	平成19.5.7	遺跡外	狹山1-2368,2369 2370	2517.21	宅地造成	4箇所にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。遺物・遺構等なし。
18	平成19.7.5	遺跡外	半田5-200,202-1 205-1,199-1 208の各一部	2984.89	宅地造成	4箇所にトレンチを設定。バックホーで掘削し、土層断面観察を実施。地表下約1.5mまで掘削したが、遺物・遺構等なし。
19	平成19.9.19	遺跡外	東葉英木1-1788-1	814.3	共同住宅	用地中央部付近にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。遺物・遺構等なし。
20	平成19.12.26	遺跡外	東池尻3-980	804.14	共同住宅	用地中央部付近にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。地表下約1.6mまで掘削したが、遺物・遺構等なし。
21	平成20.3.24	遺跡外	池尻自由丘1-29-7	2900.94	共同住宅	3箇所にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。地山面まで掘削したが、遺物・遺構等なし。



図2 平成19年度調査地位置図

# 1. 東野廃寺

狹山池が築造された7世紀前葉を契機として、狹山池周辺およびその下流域では、多くの集落が成立していく。狹山池にもっとも近い池尻遺跡では整然とした畦をもつ水田が検出され、堺市美原区域でも太井遺跡・平尾遺跡等の集落が確認されている。このような集落の増加と関連するかのように狹山池周辺では寺院の建立が始まる。狹山池の北方約4kmに所在する黒山廃寺は、出土する瓦から考えて7世紀後半の創建と考えられている。狹山池の北1.5kmに位置する東野廃寺<sup>1)</sup>も、出土した瓦から、7世紀中葉から後半の創建と考えられている<sup>2)</sup>。

現在は個人住宅として管理されている旧蓮光寺の境内には、東野廃寺創建期のものと推定される塔心礎が遺されている。古代寺院の東野廃寺は、現在の蓮光寺の境内よりも広大な寺域に、塔やその他の堂宇を配した壮大な伽藍を構えていたことであろう。この地は狹山池中樋筋のもっとも重要な子池である太満池にほど近いため、狹山池の水利に深く関与していた可能性も考えられよう。

東野廃寺の跡地に建つ旧蓮光寺は、宝田山(もと金剛山)と号する真言律宗の寺院で、創建年代は明かでない。ただし、その寺域の東側が中高野街道に面しており、これを北上すると堺市美原区の菅生神社へ至り、南下すると半田城や狹山神社に至る。こうした交通の要所に寺域が置かれていることを考慮すれば、池尻城や半田城が構えられた中世に蓮光寺が創建された可能性は充分あるといえよう。蓮光寺の中興開山は、僧通玄によって17世紀になされた。天明8(1788)年に蓮光寺で火災が発生し、地蔵堂等が焼失したため(『中林家累代日記』)、現在の建物は18世紀以後に再建されたものである<sup>3)</sup>。

今回の発掘調査において、寺域北東隅で検出した瓦溜まりは、この1788年の火災で失われた建物の瓦を処理すると同時に、再建のための整地を行った痕跡ではないかと推定される。

## 註記

1) 『狹山町史』第1巻本文編 1967年

『狹山町史』第2巻史料編 1966年

2) 上田勝『藤井寺市及びその周辺の古代寺院(下)』藤井寺市教育委員会 1987年

3) 大阪狹山市立郷土資料館図録『特別展 融通念仏の道 中高野街道と狹山』2003年

## 06-01区

本調査区は東野中二丁目988-2および988-4に所在する。住宅倉庫の建築に伴って発掘調査を実施した。予定建築物の規模に合わせて南北4.6m・東西1.5mの調査区を設定し、機械と人力で掘削を実施した。

地表から深さ約40cmまでは表面整地層が続き、その下層は締まりの悪い黄褐色砂質土で50cm～120cmの厚みで埋められている。その下層には厚さ10cm～20cm程度の暗褐灰色粘砂土層があり、瓦片を少量包含する。その下層に厚さ最大80cmの瓦溜まり層がある。瓦溜まりの上面は調査区内で北から南へ下る斜面を形成する。おそらくは、寺域の北辺と東辺を画するような土塁状に盛り立てられ、その内側を土砂で整地していったものと思われる。地表下1.8mで明灰青色粘土の地山面に達する。地山面に遺構等は確認できなかった。

瓦溜まりから出土した遺物には、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・染付碗・刀装具等がある。これらの製作時期については、引き続き調査が必要であるが、瓦溜まりを含む近世整地層が、天明8(1788)年の火災後、蓮光寺再建の工事に伴うものであるならば、概ねその時期以前のものと理解されよう。

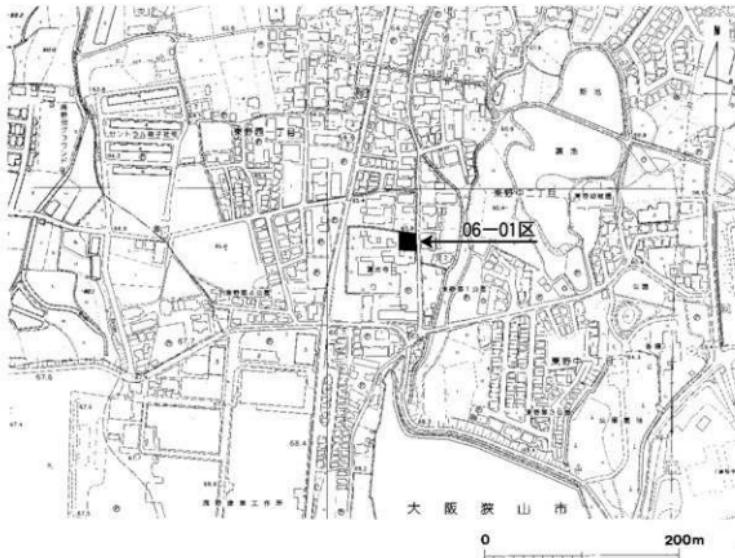
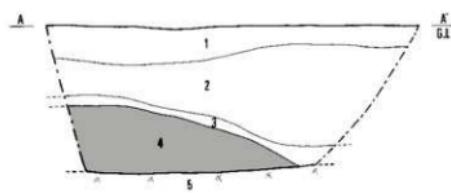
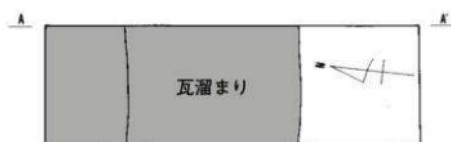


図3 東野廃寺06-01区位置図



図4 東野庵寺06-01区調査区配置図



1. 表土
2. 黄褐色砂質土（縮まり悪い）
3. 暗褐色粘土（瓦少量含む）
4. 暗灰褐色砂質土（瓦溜まり）
5. 明灰青色粘土

図5 東野庵寺06-01区造構平面図

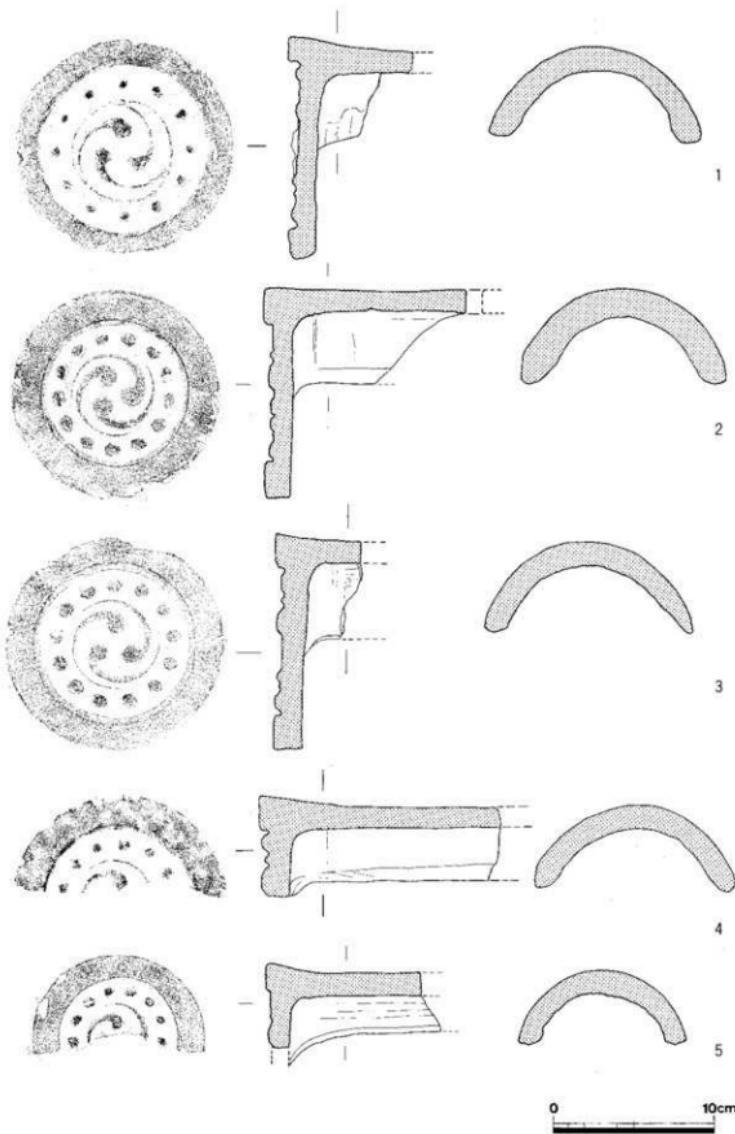


図6 東野庵寺06-01区出土遺物(1)

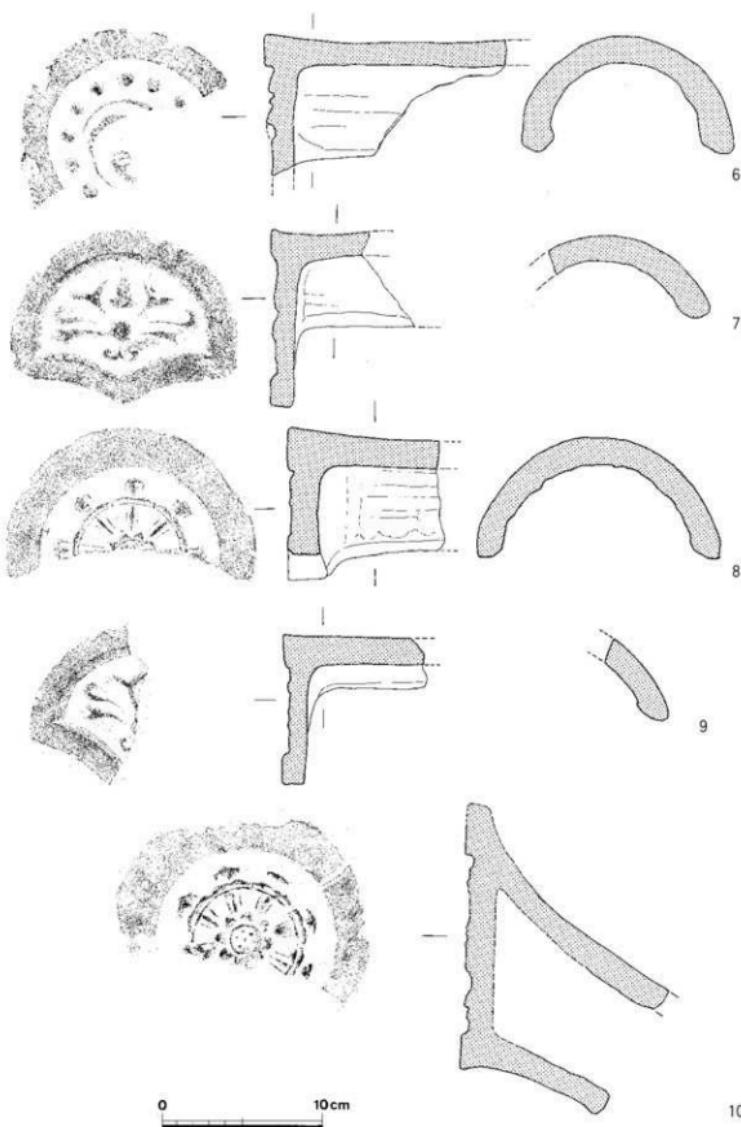


図7 東野廃寺06-01区出土遺物(2)

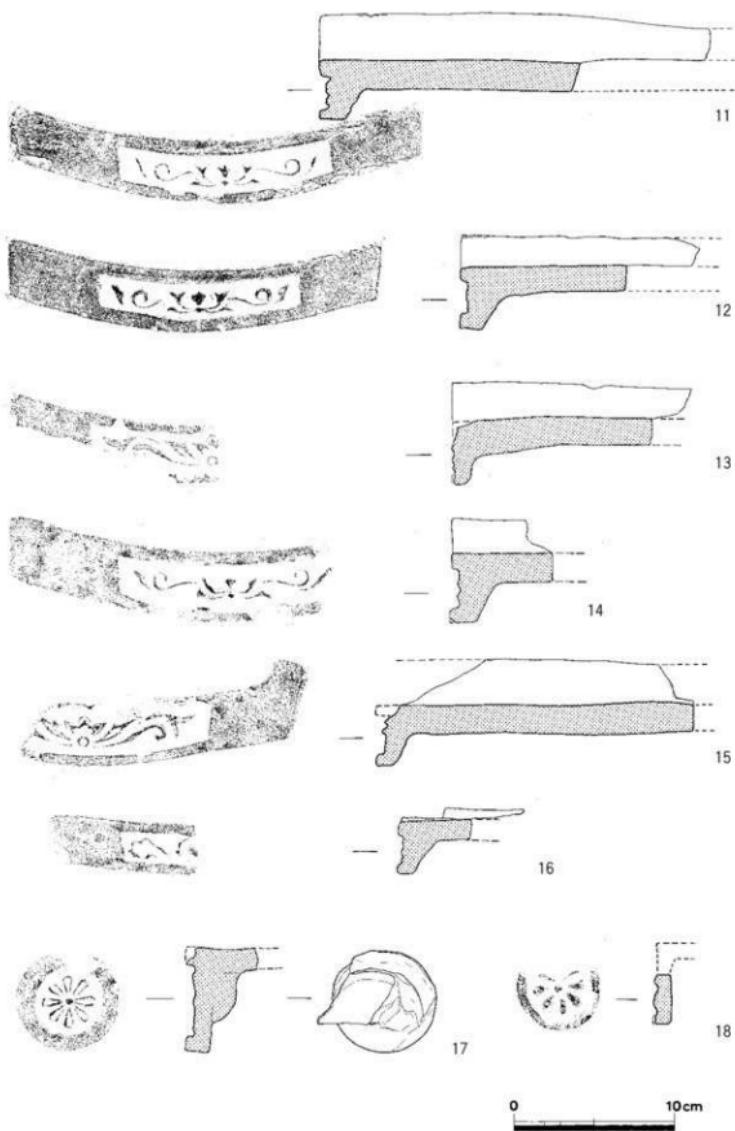
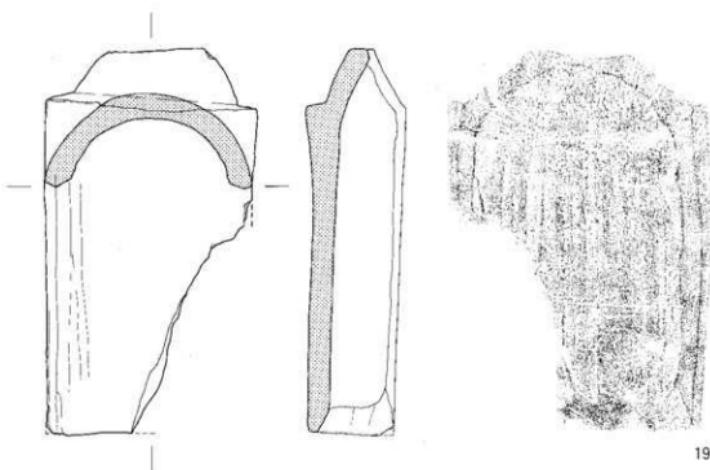
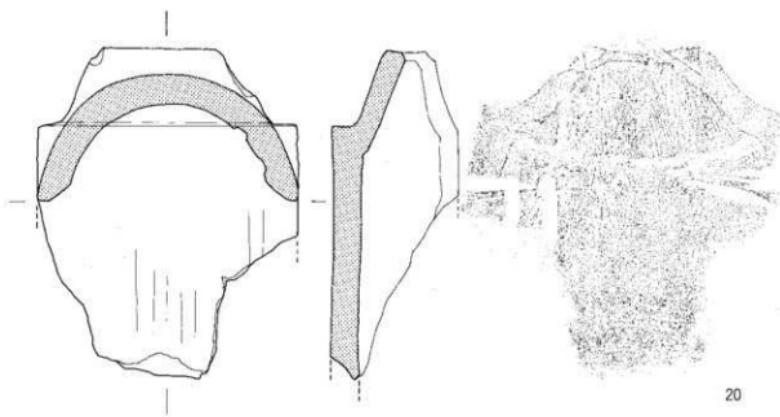


図8 東野庵寺06-01区出土遺物(3)



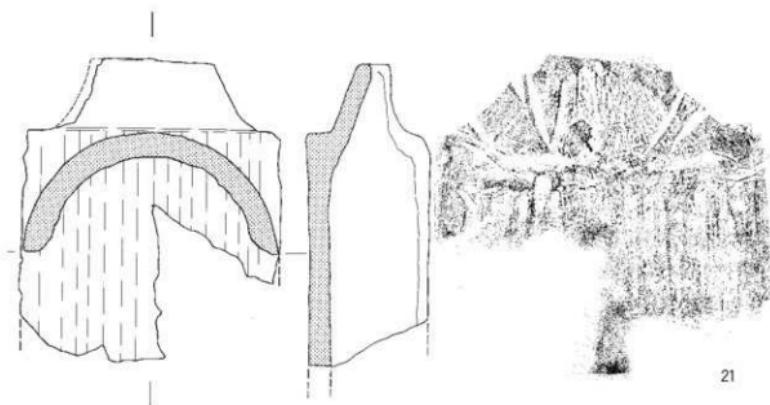
19



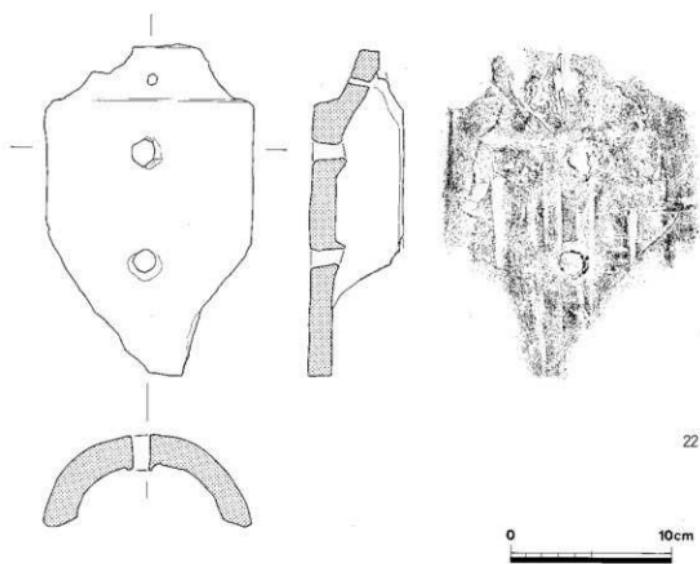
20



図9 東野廃寺06-01区出土遺物(4)

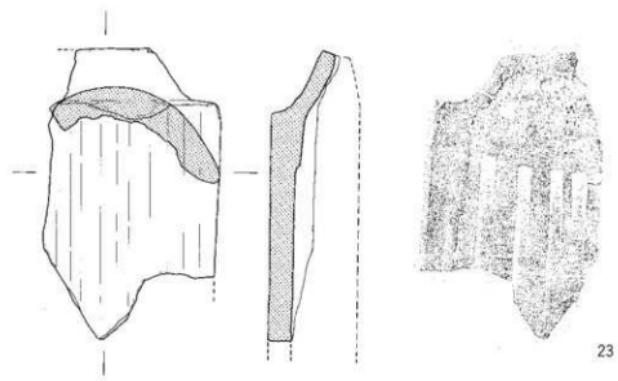


21

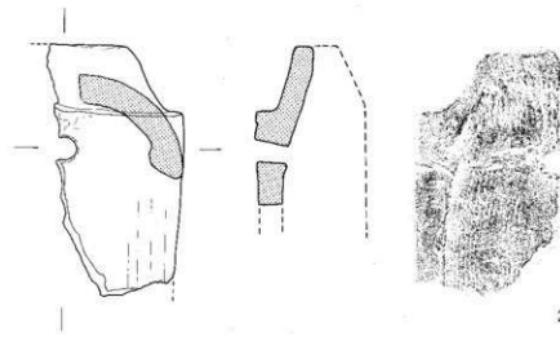


22

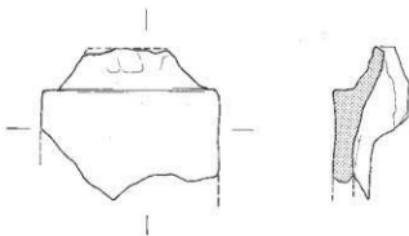
図10 東野廟寺06-01区出土遺物(5)



23



24



25



図11 東野寺06-01区出土遺物(6)

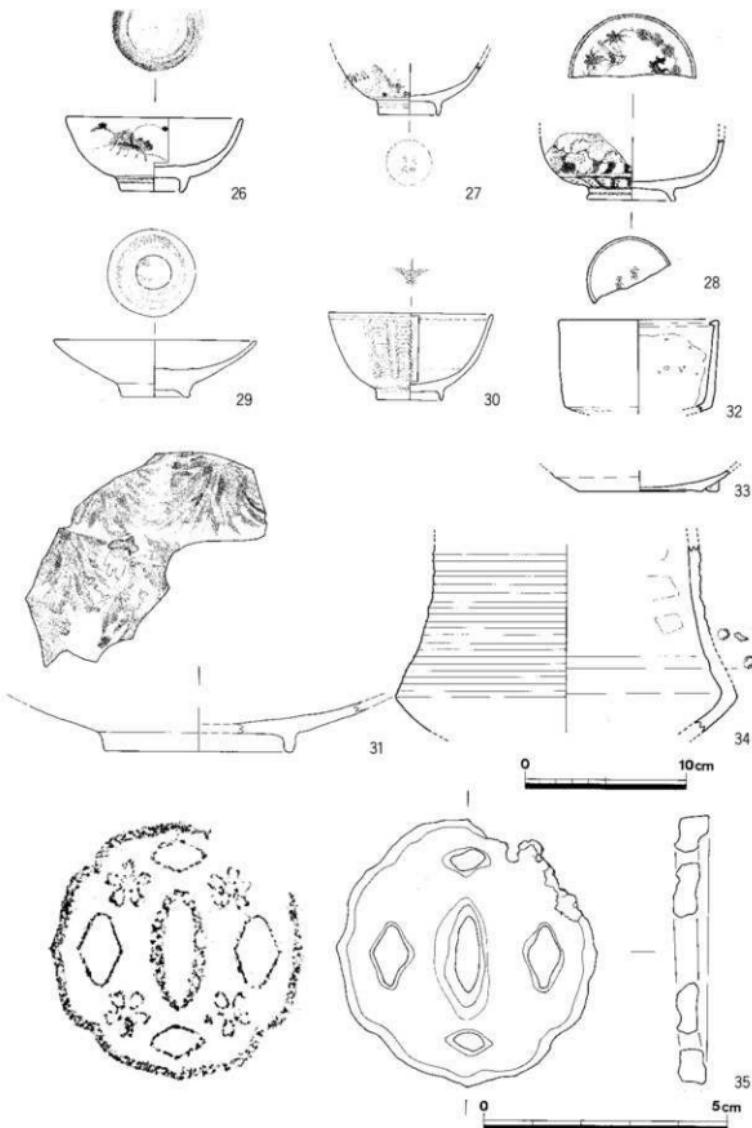
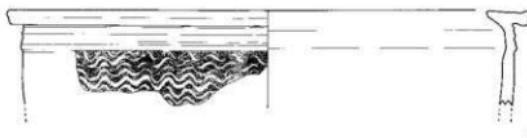


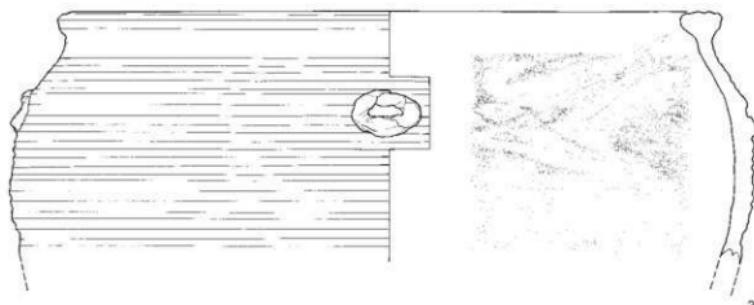
図12 東野庵寺06-01区出土遺物(7)



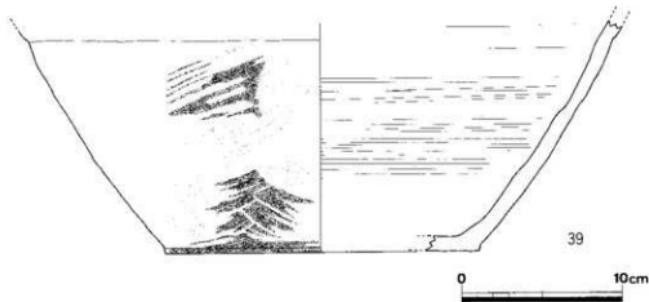
36



37



38



39

図13 東野廃寺06-01区出土遺物(8)

表3 出土遺物観察表

団面 団版	調査区	器種	産地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
1-1 2-1	HT06-01	軒丸瓦		長さ7.7 幅13.8 高さ6.5 小巴径13.8 文様区画径10.6 瓦当厚2.0	左巻三巴。連珠12。圓線。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
1-2 2-2	HT06-01	軒丸瓦		長さ12.5 幅13.2 厚さ1.7 小巴径13.1 文様区画径8.5 瓦当厚2.3	左巻三巴。連珠13。1ヶ所穿孔あり。後部、ヘラによる加工痕あり。裏面、ヘラによる加工痕と沈線。後はナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ・クロ)若干含む。焼成：良好。残存：丸区部分ほぼ残存。
1-3 2-3	HT06-01	軒丸瓦		長さ5.3 幅13.6 厚さ1.8 小巴径13.4 文様区画径9.2 瓦当厚2.1	左巻三巴。連珠13。裏面、ヘラによるゆるい加工痕。他はナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ)若干含む。焼成：良好。残存：丸区部分ほぼ残存。
1-4 2-4	HT06-01	軒丸瓦		長さ10.0 幅13.4 厚さ1.8 瓦当厚2.1	左巻巴。連珠6残存。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
1-5 2-5	HT06-01	軒丸瓦		長さ9.6 幅10.8 小巴径5.2 文様区画径7.3 瓦当厚2.0	左巻三巴。連珠8残存。裏面、ナデによる強い沈線。後は、ナデ調整。	色調：灰褐色。胎土：密。チャート(シロ)若干含む。焼成：良好。残存：丸区部分1/2。
2-6 2-6	HT06-01	軒丸瓦		長さ15.0 幅14.0 厚さ7.2 小巴径13.4 文様区画径9.6 瓦当厚2.3	左巻三巴。連珠8残存。圓線。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
2-7 3-7	HT06-01	軒丸瓦・扇形		長さ9.8 幅14.4 高さ5.9 厚さ1.4 瓦当厚2.1	唐草文。二次焼成なし。	色調：褐色。胎土：長石を少し含む。金雲母少。
2-8 3-8	HT06-01	軒半丸瓦		長さ9.5 幅15.7 厚さ1.9 丸区径7.8 文様区画径10.7 瓦当厚2.4	半丸区部分文様あり。後部、ヘラによる加工痕あり。裏、ヘラによるナデ痕あり。他は、回転ナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ)若干含む。焼成：良好。残存：半丸区部分ほぼ残存。
2-9 3-9	HT06-01	丸扇型		長さ8.0 厚さ1.5 文様区画径4.5 瓦当厚1.9	文様あり。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ)若干含む。焼成：良好。

図面 図版	調査区	器種	産地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
2-10 3-10	HT06-01			長さ12.9 幅15.9 丸区径16.4 文様区画径10.3		色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
3-11 3-11	HT06-01	軒平瓦		長さ24.5 幅25.5 頭厚1.7 文様区画径13.3 瓦当厚1.8	唐草文あり。	色調：灰色。胎土：密。焼成：良好。残存：文様部分わずかに欠損。
3-12 3-12	HT06-01	軒平瓦		長さ16.5 幅26.0 頭厚2.0 文様区画幅2.2 瓦当厚2.0		色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ)含む。焼成：良好。残存：文様部分若干欠損。
3-13 4-13	HT06-01	軒平瓦		長さ15.0 幅14.0 頭厚1.0 文様区画幅不明 瓦当厚2.1	頭部貼り付け痕あり。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
3-14 4-14	HT06-01	軒平瓦		長さ8.0 幅20.4 頭厚1.9 文様区画幅2.7 瓦当厚1.9	唐草文あり。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
3-15 4-15	HT06-01	軒平瓦		長さ19.8 幅17.3 頭厚1.3 文様区画幅2.5 瓦当厚1.4	唐草文あり。	色調：褐色。胎土：密。長石、チャート(シロ・クロ)を含む。焼成：不良。残存：1/3。
3-16 4-16	HT06-01	軒平瓦		長さ7.7 幅10.3 頭厚1.1 文様区画幅1.9 瓦当厚1.3	唐草文あり。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
3-17 4-17	HT06-01	軒棟瓦		長さ4.3 幅6.5 厚さ1.6 文様区画径4.4 瓦当厚1.4	八葉蓮華。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：チャート少し含む。
3-18 4-18	HT06-01	軒棟瓦の丸区部分 (菊丸か?)		厚さ1.1 丸区径5.3 文様区画径4.1	8片の花弁文を施す。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ・クロ)含む。焼成：良好。残存：若干。
4-19 5-19	HT06-01	丸瓦		長さ24.2 幅13.1 高さ6.2 厚さ1.5 玉縁長さ3.7	裏面、布目跡。後部、面取り。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ)含む。焼成：良好。残存：3/4。

図面 図版	調査区	器種	産地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
4-20 5-20	HT06-01	丸瓦		長さ20.4 幅16.1 高さ7.8 厚さ1.8 玉縁長さ4.8	裏面、布目痕と2本の長方形の加工痕あり。後部、面取あり。	色調：淡褐色。胎土：密。チャート(クロ・シロ)若干含む。焼成：良好。残存：2/3。
5-21 5-21	HT06-01	丸瓦		長さ18.9 幅16.2 高さ7.8	裏面、布目痕。後部、面取あり。肩部2次焼成痕あり。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
5-22 5-22	HT06-01	丸瓦		長さ20.6 幅12.8 高さ5.7	裏面、布目痕。二次焼成なし。	色調：灰色。胎土：長石を少し含む。
6-23 5-23	HT06-01	丸瓦		長さ18.1 幅10.8 高さ5.5 厚さ1.8 玉縁長さ3.2	裏面、布目痕と4本の加工痕あり。後部、面取あり。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ・クロ)含む。焼成：良好。
6-24 5-24	HT06-01	丸瓦		長さ15.7 幅8.0 高さ5.5 厚さ1.8 玉縁長さ4.2	裏面、布目痕。後部、面取あり。1ヶ所穿孔あり。	色調：灰色。胎土：密。チャート(シロ・クロ)含む。焼成：良好。残存：1/4。
6-25 5-25	HT06-01	丸瓦		長さ9.3 幅11.0 高さ4.7	玉縁端部、指押え痕あり。二次焼成なし。	色調：灰褐色。胎土：長石を少し含む。
7-26 6-26	HT06-01	染付中碗		口径10.8 基部径4.5 高台径3.9 器高4.6	内面、見込輪ハゲ。外面、染付。草花文。透明釉を施す。高台接地面は無釉。	色調：乳白色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁・全体1/2。
7-27 6-27	HT06-01	染付小碗 (丸形)		基部径4.2 底径3.9 残存高3.3	染付透明釉。竹籠文。	胎土：白。
7-28 6-28	HT06-01	染付中碗	肥前系	基部径5.4 高台径5.4 残存高3.9	体部外面、草花文。内面見込み、松竹環状文。底部外面、「富春」(富貴長春)。染付透明釉を施す。	色調：白色。残存：口縁なし。高台部分1/2残存。反転復元。
7-29 6-29	HT06-01	磁器小皿 (丸形底狭)		口径12.6 基部径4.9 底径4.3 器高3.5	ロクロ形成。見込輪ハゲ。透明釉。	胎土：白。
7-30 6-30	HT06-01	染付中碗 (丸形)		口径10.2 基部径4.2 底径4.0 器高5.4	算本文。見込、虫文。染付透明釉。	胎土：白。
7-31 6-31	HT06-01	染付中皿 (丸形)		底径11.6 残存高2.8	ロクロ形成。草花文。染付透明釉。	胎土：白。反転復元。

図面 図版	調査区	器種	産地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
7-32 6-32	HT06-01	陶器香炉		口径9.8 残存高5.7	内面口縁部から外面体部にかけて、透明釉を施す。他は無釉。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁部1/4・全体1/5。反転復元。
7-33 6-33	HT06-01	土師質・ 器種不明		底径7.6 残存高1.2	体部外面、三角錐のような脚を有す。内外面、鉄釉を施す。体部外面・底部外面、ヘラ削りを施す。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁ナシ。底部のみわずかに残存。
7-34 6-34	HT06-01	土瓶(隱元 形か?)		体部最大径21.2 残存高11.6	体部外面、ロクロ目を施す。内面、鉄釉。外面、鉄釉のち白釉を施す。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：底部、口縁部は残存せず。体部のみ、わずかに残存。反転復元。
7-35	HT06-01	刀装具 銚		長さ5.6 幅5.2 厚さ0.6		
8-36 7-36	HT06-01	炻器中壺		口径32.4 残存高5.9	体部外面、刷毛目文あり。鉄釉、白泥を施す。他はナデ調整。	色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁部1/8。全体わずかに残存。反転復元。
8-37 7-38	HT06-01	陶器中壺		口径37.6 残存高8.9	口縁端部は凹の面を成す。体部外面、ロクロ目。内面に白泥ハケ目の跡。他はナデ調整。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁1/8。全体僅かに残存。反転復元。
8-38 7-38	HT06-01	陶器中壺		口径39.6 残存高15.5	壺型。ロクロ目。裏面、刷毛面。	胎土：灰褐色。
8-39 7-39	HT06-01	陶器中壺		底径19.5 残存高14.3	外面、白泥のハケ目跡。内面、カキ目。ナデ調整。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：底径部約1/4残存。底部1/10。口縁部なし。反転復元。

## 2. 狹山藩陣屋跡

### 07-01区

本調査区は東池尻三丁目2479-3に所在する。住宅の建築に伴って事前発掘調査を実施した。用地中央付近に東西8.8m・南北0.6mの調査区と、南北2.0m・東西1.2mの拡張区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。地表下55cmで黄褐色シルト層の上面に達するが、調査区の東半分と西端では近現代の整地による攪乱が激しい。調査区中央付近において攪乱を受けていない近世期の土層を確認したため、北側へ調査区を拡張する形で掘削を進め、拡張区北端付近で径25cmのピットを確認した。この遺構は、黄褐色シルト層上面から掘り込まれ、上層の黄褐色砂質土をその埋土としている。おそらく、この遺構面は狹山藩陣屋跡下層遺構面に対応するものと思われ、地表下約30cmで検出される暗褐灰色砂質土層の上面が幕末期の上層遺構面に対応するものと推定されよう。なお、今回の調査区内では遺物を検出することはできなかった。

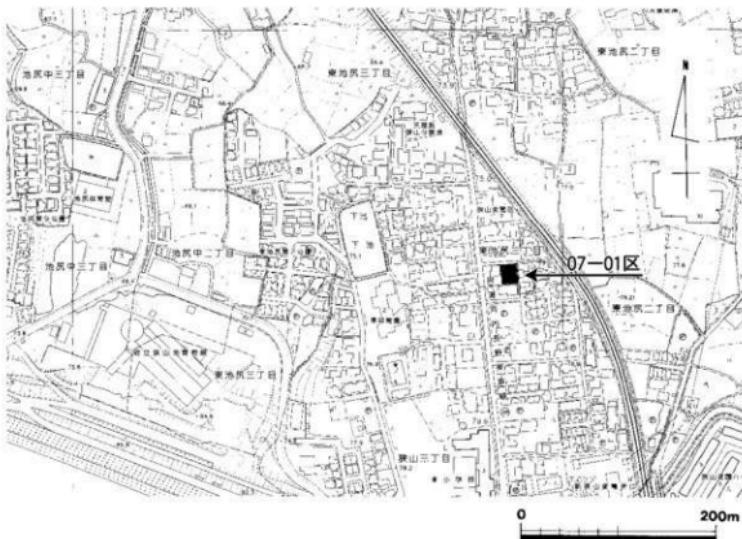


図14 狹山藩陣屋跡07-01区位置図

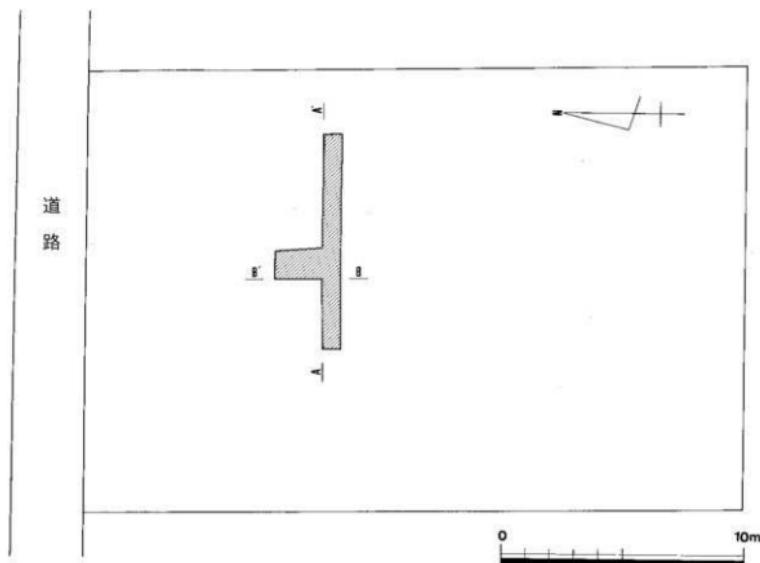


図15 狹山藩陣屋跡07—01区調査区配置図

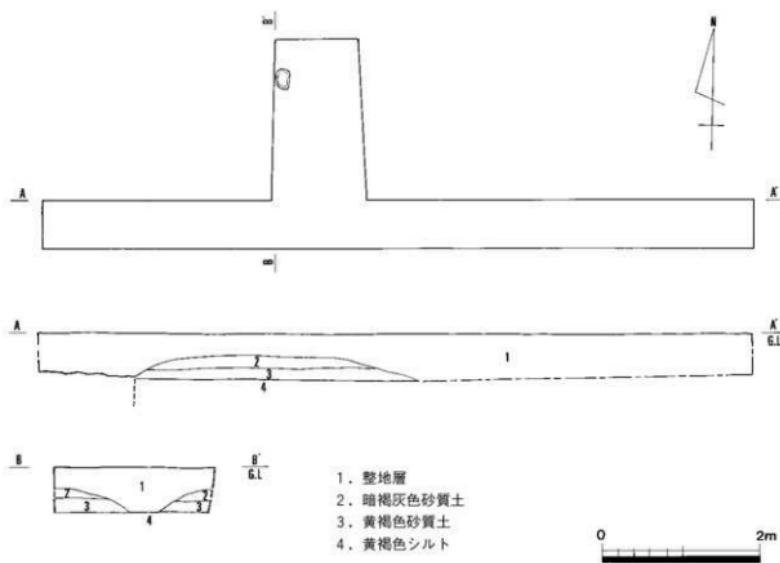


図16 狹山藩陣屋跡07—01区遺構平面図

### 3. 範囲確認調査

#### 070507区

本調査区は狹山一丁目2368、2369、2370に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。ただし、狹山新宿遺跡の推定復元範囲の南に隣接するため、分譲宅地の開発に先立ち、 $2517.21\text{m}^2$ を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

同開発の土地利用計画で道路部分として予定されている箇所において、4本のトレンチを設定し、土層断面観察を行った。もっとも北方に設定したAトレンチは東西長3.7m・深さ1.1m、その南東に設定したBトレンチは南北長4.0m・深さ1.1m、中央付近および南端付近に設定したCトレンチ・Dトレンチは長さ3.0m・深さ0.9mで、それぞれの幅は約0.8mである。Aトレンチでは、地表下50cmまで整地層が、その下層に厚さ10cmの灰青色粘土層が、その下層に厚さ10cmの暗灰褐色砂質土層が部分的にみられ、その下層で明黄灰色粘土から成る地山層を確認した。Bトレンチでは、地表下30cmまで整地層が、その下層に厚さ35cmの灰青色砂質土層が、その下層に厚さ45cmの暗灰色粘土層があり、その下層で灰褐色粘土から成る地山層を確認した。C・Dトレンチでは、地表下60cmまで整地層が、その下層に厚さ30cmの暗灰色粘土層があり、その下層で灰褐色粘土層から成る地山層を確認した。Aトレンチ最下層で観察された暗灰褐色砂質土層では、トレンチ西端部分において、溶解した土師質土器片らしき微量の土塊が含まれていたが、ほぼ全域で上層からの攪乱を受けていたため、近現代層からの混入かどうかの判別さえつかなかった。よって、ごく一部に残存するこの層を、遺物包含層として積極的に認めることは困難であった。いずれの土層中からも遺物の包含を確認することはできず、遺構らしき痕跡も確認することはできなかった。

#### 070705区

本調査区は半田五丁目200、202-1、205-1、199-1、208に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。ただし、狹山神社遺跡の西側に隣接するため、分譲宅地の開発に先立ち、 $2984.89\text{m}^2$ を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

同開発の土地利用計画で道路部分として予定されている箇所において、4本のトレンチを設定し、土層断面観察を行った。各トレンチで長さ3~4m・深さ1.5mの掘削を行い、土層断面の観察を実施した。用地西側に設定したトレンチでは西除川の氾濫原と思われる水性堆積砂層を観ることができたが、他のトレンチでは盛土層内の掘削にとどまり、狹山神社参道等に関連する遺構や遺物の包含を確認することはできなかった。

## 070919区

本調査区は東茱萸木一丁目1788-1に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。ただし、半田遺跡の南西側に位置するため、共同住宅の建設に先立ち、814.3m<sup>2</sup>を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

用地中央付近において、長さ6mのトレンチを設定し、地表下約1.2mの深さまで掘削を行い、土層断面の観察を実施した。結果、盛土層内の掘削にとどまり、遺構や遺物の包含を確認することはできなかった。

## 071226区

本調査区は東池尻三丁目980に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。ただし、狭山藩陣屋跡および池尻遺跡に隣接し、飛鳥時代・江戸時代の狭山池東橋筋の水路にも近く、また7世紀前葉の須恵器窯である東池尻1号窯の灰原発掘調査地にも隣接するため、共同住宅の建設に先立ち、804.14m<sup>2</sup>を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

用地中央付近において、南北長11mのトレンチを設定し、地表下約1.1mの深さまで掘削を行い、土層断面の観察を実施した。地表下1.0m～1.1mで灰青色シルト層から成る沖積砂層の上面を確認した。その直上に厚さ15cm程度の暗灰色粘土層の堆積が観られた。この粘土層は、西暦616年頃に設置された狭山池下層東橋の放水路近辺および東池尻1号窯灰原の下層で検出されたアシ等の植物遺体を包含する自然堆積層に近似するものである。しかしながら、当該層およびその上層において遺物の包含を確認することはできなかった。

## まとめ

個人住宅等の開発を対象とした平成19年度の埋蔵文化財調査は、いずれも小規模な発掘調査や立会調査であった。今年度は、前年度末に発掘調査を実施した東野廃寺06-01区の内業調査を行うとともに、狹山藩陣屋跡07-01区および、池尻城跡07-01区事前発掘調査を実施した。また、埋蔵文化財包蔵地外において、範囲確認のための試掘調査を070507区・070705区・070919区・071226区で実施した。池尻城跡07-01区については年度末の調査であったため、その詳細については平成20年度に報告を行う予定である。

東野廃寺06-01区で確認された瓦溜まりは、近世寺院である蓮光寺の寺域の北辺と東辺を画するような配置で土壘状に盛り立てられたものと推定される。この瓦溜まりを含む土層は、おそらく、天明8(1788)年の火災後に行われた蓮光寺再建工事の際の整地土ではないかと考えられ、今後の継続的な調査・研究によって、近世における蓮光寺のようすが考古学的に解明されることが期待されよう。

なお、今年度は、狹山藩陣屋跡および池尻城跡等における発掘調査・立会調査件数が例年に較べて少ないものとなったが、まだ小規模な開発は今後とも継続して発生するものと予測される。引き続き、地道な調査を重ねて市内遺跡の実態解明に役立てていきたい。

## 報告書抄録

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはくつちょうさかいようほうこくしょ18					
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書18					
副書名						
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書					
シリーズ番号	35					
編著者名	植田隆司					
編集機関	大阪狭山市教育委員会					
所在地	〒589-0011 大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384-1 TEL.072-366-0011					
発行年月日	西暦2008年3月31日					
所蔵遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	調査区	北緯	東經	調査面積 m <sup>2</sup>
ひがしのはいじ 東野廃寺	おおさかさやましひがしのなか 大阪府大阪狭山市東野中	27231	—	06-01 34° 31' 08"	135° 33' 25"	6.9
さやまはんじんやあと 狭山藩陣屋跡	おおさかさやましひがしのけじり 大阪府大阪狭山市東池尻	27231	—	07-01 34° 30' 29"	135° 33' 19"	7.7
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東野廃寺	社寺跡	江戸時代	06-01区 瓦溜まり	06-01区 刀装具鈎・軒丸瓦・ 軒平瓦・染付碗	寺院再建時の 整地跡か	
狭山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代	07-01区 ピット			

# 図 版



a 調査区全景



b 瓦溜まり



1



4



2



5



3



6





13



14



15



16



17



18



19



20



22



21



23



24



25



35



26



27



28



29



30



32



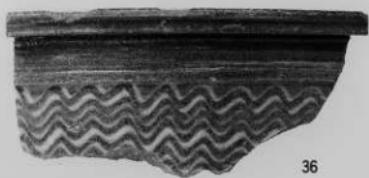
33



31



34



36



37



38



39



a 調査区全景



b 遺構

大阪狭山市文化財報告書35

**大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 18**

発 行 日 平成20年(2008年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狹山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社

奈良県葛城市竹内365番地1